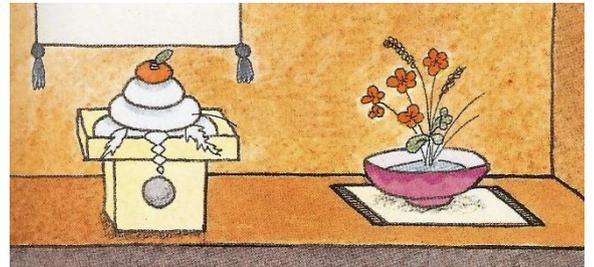


ぼーぐなん広場(98)

ぼーぐなん広場にお立ち寄りの皆様



明けましておめでとうございます

いろいろな英語教育の現場でご活躍の皆様が抱えておられる課題が、一つでも二つでも解決の糸口が見つかる年となりますように、心から願っております。

1年前、2018年のスタートを切ったとき、「やり甲斐のあるやり取り」の実践に励みたい、小学校現場で子どもたちと出会うときも、現場の先生方と子どもに寄り添う英語指導技術を考え合う時にも、「やり取り」がもたらす英語の習熟について考えを深めたい、とこぶしを握り締めましたが、さて、どこまで歩を進めることができたのかなあ、と反省中です。

いくつか、いいことがありました。その第一は、この数年お世話になってきた高山市と白川郷での研究で、“できる度 Check” 調査票を用いた、子どもの学びの様子を客観的に見ようとする調査に参加してくださる学校が、私共の予想をはるかに超えて、倍増以上のご協力を得られることになりました。このお正月から2月にかけてデータが集まり3、4月には分析結果が出ると思いますが、とても楽しみにしています。(この調査は、2011年から開始しており、逐年の報告は、2013年のものから、日本英語検定協会のホーム・ページにアップしていただいております。 [リンク](#))

この調査は、私たちの授業の在り方を映す鏡のようなもので、毎年大きな示唆を受けています。子どもは本当に正直、こちらの働きかけ方の方法次第で、どのようにも対応してくれます。私たちの授業の判定をしてくれるのは、やっぱり子どもたちだな、子どもが見つめている私たちの一挙手一投足に軋みがあると、すぐにそれが顔の表情にも出てくる、それを見逃してはならない、とつくづく思われる調査です。

第二のワクワクドキドキは、私立小学校数校で活用されてきた *English in Action Online* を、公立小学校でも実験を開始することができるようになったことです。これも、現在は高山市と白川郷で行っています。秋に開始したばかりで、文部科学省から配布されている Let's Try! や We Can! の活動の補強に使っていただいているので、子どもたちがどのように受け止めてくれるかは、今後の課題です。公立小学校に電子ボードとタブレットが導入され始めているところが徐々に増えているので、今後の展開が楽しみです。

そして、第三は、私が振り返れば40年以上も所属している語学教育研究所の研究仲間と一緒に、絵本を授業に活用してきた経験を踏まえて、ブックレットを出版できたことです。「小学校英語3～絵本を活用した授業づくり～」という123ページの淡いピンク色の小冊子ですが、扱った本は40冊を超えています。どこかでお目に触れるとありがたい、と思います。

このような仕事を、この1年支えてくれたのは、やっぱり今までに触れ合った子どもたちから学んだことだったと確信しています。そして、その子どもたちを支えてこられた先生方と話し合っ、考えさせられたことが、私の背中を押してくださり、一歩踏み出すことができたのだと思うと、なんと有難い一年だったことかと感謝に堪えません。

2019年、移行措置の1年、やがて検定教科書を手にとって、2020年の準備を始めることになるでしょう。皆様とこの広場で出会い、新しい局面を迎える小学校英語について、更に考えを深めていきたいと思っております。この一年、皆様のお力添えを得たく、どうぞよろしく願いいたします。

久埜 百合

■[現在までに掲載済みの「ぼーぐなん広場」リスト](#)

■[「もじもじ・コーナー」](#)

■[T&L \(電子黒板対応ソフト\) 活用者の声](#)

■[「えいごリアン・コーナー」](#)

■[研修・セミナーのご案内](#)

■[久埜百合著教材のホームページ](#)